

## 「東京に暮らす女性たち」概要版

ジェンダー平等プロジェクト「東京に暮らす女性たち」

### 働く<sup>と</sup>暮らすを分かち合う社会を

### 一みんなが幸せになる<sup>ジェンダーびょうどう</sup>男女平等参画社会の実現を！

GDP 世界第3位（2017年 IMF）の日本ですが、「女性活躍」を掲げているにもかかわらず、男女間の格差を表すジェンダーギャップ指数ランキングでは順位を下げ続けています（2012年 101位、2017年 114位）。また、今年になって、事務次官や自治体の首長らによるセクシュアル・ハラスメントや、医学部入試における女性差別など、日本の男女平等の遅れを露呈させるような事案が次々に発生しています。

働く人の4割が非正規雇用となり、そのうちの7割を女性が占めています。専業主婦世帯と共働き世帯の数は35年かかって逆転し、後者が多数派となっているにもかかわらず、妻の家事・育児時間は1日7時間34分であるのに対し、夫はわずか1時間23分です（総務省「社会保障基本調査」2016年）。この間、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、パート労働法、女性活躍推進法など、法制度が整備されてきましたが、女性が男性の働き方に合わせるのではなく、男性の働き方を変革しなければ、女性の負担が増すばかりではないでしょうか。調査から介護や子育ての社会化の充実が、福祉的視点からだけでなくジェンダー視点からも重要であることが再確認されました。

私たちは、すべての政策をジェンダー平等の視点で見直し、女性に自己責任のもと負担や犠牲を強いるのではなく、社会の問題としてとらえ、政治、経済、社会のあらゆる分野の政策において「ジェンダー主流化」を提案します。

#### ◆ 提案1:子育て中の女性におけるジェンダー平等（全政策は別紙）

- ・長時間労働の見直しを重点とした働き方改革
- ・男性の育児休業取得の義務化（パパ・クォータ制）
- ・各自治体の育休取得日数も加味した男性の育児取得率の公表（男女平等見える化）

#### ◆ 提案2:非正規単身女性におけるジェンダー平等（全政策は別紙）

- ・同一価値労働同一賃金の実現による男女賃金格差の是正
- ・単身女性向けの就労支援制度をつくり非正規雇用から正規雇用への促進を図る
- ・アパートやマンションの空き室を活用した家賃補助で公営住宅の不足を補う

#### ◆ 提案3:高齢女性におけるジェンダー平等（全政策は別紙）

- ・男女を問わず、孤独や孤立を解消するための地域での役割と居場所をつくる
- ・8050問題をなくし高齢の親が安心して暮らせる東京をつくる
- ・自分らしい埋葬の仕方を選択できるよう、樹木葬ができる公園や市営・区営墓地をつくる

# 女性たちの現状とインタビュー調査から見てきたこと

## ◆子育て女性

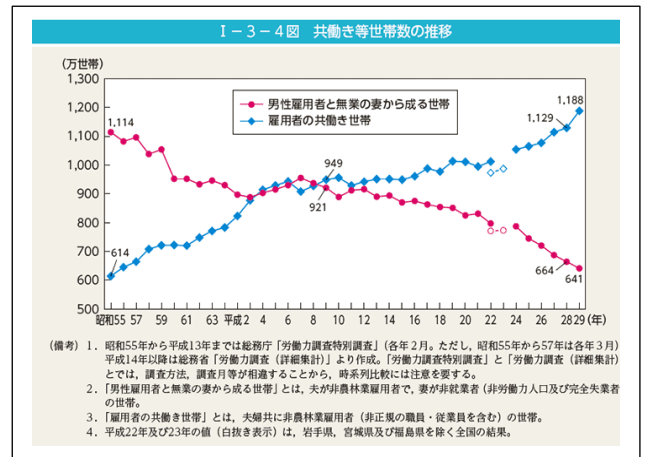
### ➤ 家事・育児は妻がメインが当たり前

働く母親は7割を越えたが、一方で、年間20万人の女性が出産を機に退職。

「専業主婦」が減り、世帯収入を支えるために妻が「非正規」で働く割合が増えた。にもかかわらず、夫が主な稼ぎ手であり、妻は家事や育児を担う「男は仕事・女は家庭」という「固定的性別役割分業意識」は、変わっていない。調査からみえる子育て女性の苦悩の多くはそこに起因しているのだが、インタビューからは子育て中の女性にその認識が薄い。

### ➤ 子育て女性の問題が集約されるシングルマザー

シングルマザーへのインタビューから、子育てをしながら働く女性の問題が如実に表れた。子どもにとっての時間を優先すると仕事選びの段階から、非正規を選ばざるを得ない。「仕事をしない」という選択肢がないシングルマザーが自らの能力を發揮し子どもを育てながら働ける環境を整えるには女性全体の賃金アップや休暇取得を含めたワーク・ライフ・バランスの実現が重要。



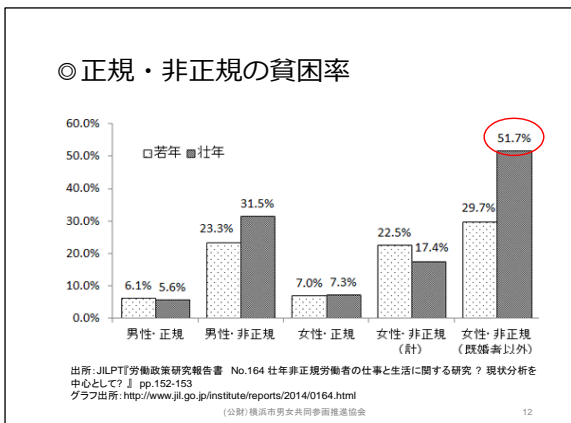
共働き世帯の推移：雇用者の共働き世帯は、1980年の614万世帯から2017年には1,188万世帯に増加、男性雇用者と無業の妻から成る世帯は、1980年の1,114万世帯から641万世帯に減少。(2018年版男女共同参画白書)

## ～シングルマザーが子育てしやすい東京へ～

## ◆非正規シングル女性

### ➤ 男性稼ぎ主モデルが前提の女性の非正規労働

もともと女性の働き方として、パートを中心とする非正規雇用の割合は高かった。それが問題にならなかったのは、女性は家事や育児を担いながら主たる家計者(夫)に扶養されるという前提があったからである。



### ➤ 現在・将来の不安の第1位は「経済問題」

本当なら正社員で働きたかったという理由で派遣や契約社員を選んでいる人は収入面の低さを不満に感じており、非正規雇用の賃金水準の低さの是正、仕事の内容と賃金の関係を適正にする同一価値労働同一賃金の実現が求められている。

正規・非正規の貧困率 公益財団法人横浜男女共同参画推進協議会資料

## ～結婚してもしなくても、女性が自立した個人として生きていくために～

## ◆高齢女性

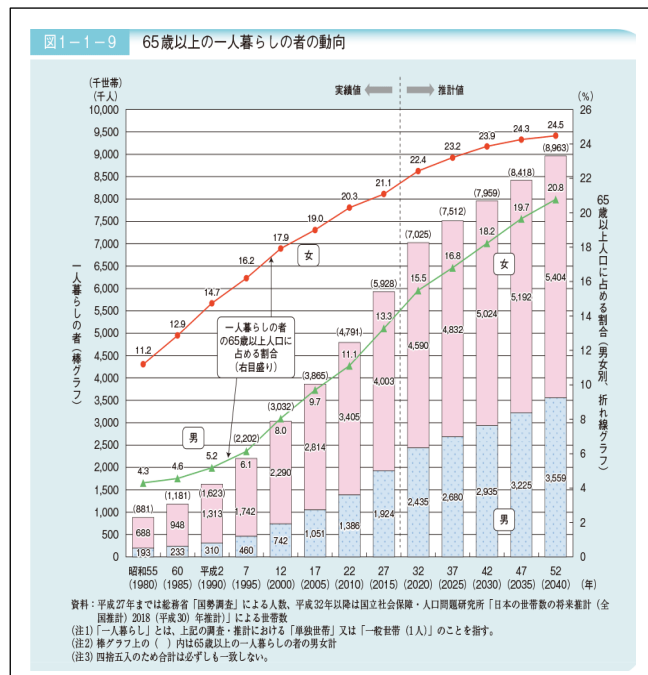
### ▶ 高齢者単身世帯が多い、うち65%は女性

#### —東京都の高齢者の暮らしの現状

東京都の単身世帯割合は47.3%と全国に比べて10ポイント以上も多く、一世帯あたりの人員も、1.99と全国で最小。単身世帯約316万世帯のうち高齢者単身世帯は約74万世帯、そのうち女性高齢者単身世帯は約48万世帯と高齢者単身世帯の約65%を占めている。

### ▶ ひとり暮らしになっても不安なく暮らしたい

夫の年金を前提とした老後の家計のあり方が高齢女性の暮らしに直結し、結婚しない女性や離別した女性が男性に比べ低い賃金水準で働き続けることでの年金受給額になるという問題は、現在の非正規単身女性の課題とも重なることから対策が必要である。



平成30年版『高齢社会白書』65歳以上の一人暮らしの者の動向

## ～自分らしく自立して生きることができるように～

「女性の暮らし」の3つのテーマ「子育て女性」「非正規単身女性」「高齢女性」について調査した結果、働き方や介護や子育てを福祉的視点からだけでなくジェンダー視点から見直すことが重要であることも再確認されました。

国は女性活躍を高らかにうたってはいますが、女性たちが本当に望んでいる暮らしや生き方に沿う方向になっているとは思えません。インタビューからは、仕事も家族も、そして自分も大事にできる生活の実現こそ、めざすべき方向であることがはっきりと訴えられています。女性だけでなく男性も同じように生きられることが何よりジェンダー平等の到達点であり、誰もが幸せになれる社会です。

そのために次の政策を提案します。

## 男性稼ぎ主型（標準世帯）の生活保障システムから両立支援型\*へ

出典：大沢真理「今こそ考えたい生活保障のしくみ（2010年）」岩波ブックレット

雇用・労働

税制

社会保障制度

世帯単位から個人単位へ

## 調査概要

——女性自身の生き方、暮らし方はどうなっているのか——

女性の社会進出が進む一方で、家事・育児・介護は依然として「女性の仕事」という前提では真の平等社会は形成されません。いまこそ、多岐にわたる政策テーマ（介護、住まい、労働、年金、子育てなど）をジェンダー平等の視点であらためて検証し課題解決していくときととらえ、インタビュー方式で調査を実施し、まとめました。

子育て女性は、在宅で子育てをしている女性、育児休業中の女性など、広く“子育て中の女性”ならではの課題について実態を把握し（子どもは概ね18歳まで）、課題や必要な支援について考察、政策提案につなげることをめざしました。

平均年収は男性正社員の約半分の200万円程度と厳しい状況にある非正規雇用の女性たち。35歳以上になると、正規雇用への採用も厳しくなるなか、特にシングル女性のしごとや暮らしの状況、将来不安などを把握し、社会的支援を考えました。

さらに、東京で暮らす65歳以上の高齢女性が何に不満や不安を持っているのかを知り、安心して暮らしていくにはどのような制度やしくみがあればよいのかをさぐりました。

- ◆現状把握のための学習会 2018年3月～4月
- ◆インタビュー 2018年4月～6月（一部8月）実施
- ◆フェイスシート、意識調査
- ◆インタビュー 子育て女性68人・非正規単身女性11人・高齢女性20人
- ◆各チームにより聴き取り方式によって実施

### プロジェクトメンバー

日向美砂子（プロジェクトリーダー）、皆川満寿美（PTアドバイザー）、西崎光子（都政アドバイザー）、山内玲子（ネット都議会議員）、実川圭子（高齢女性WTリーダー）、伊藤ひとみ（非正規単身女性WTリーダー）、白井菜穂子（子育て女性WTリーダー）、武内好恵（東京ネット事務局長）

### 子育て女性WTメンバー

白井菜穂子（日野ネット）、奥田雅子（杉並ネット）、本西みつえ（江戸川ネット）、岩永康代（国分寺ネット）、村上洋子（稲城ネット）、田中さやか（品川ネット）

### 非正規単身女性WTメンバー

伊藤ひとみ（江戸川ネット） 西崎光子（世田谷ネット） 橋本恵子（練馬ネット）、田村智恵美（府中ネット）、山崎とも子（小平ネット）

### 高齢女性WTメンバー

実川圭子（東大和ネット）、大塚恵美子（東村山ネット）、平野弘美（小平ネット）、小西美香（清瀬ネット）、柳井克子（練馬ネット）、高岡潤子（世田谷ネット）